

Economic Indicators

発表日: 2023年1月31日(火)

鉱工業生産(2022年12月)

～23年1-3月期も外需の減少による下押しが強まる見込み～

第一生命経済研究所 経済調査部

副主任エコノミスト 大柴 千智 (TEL: 03-5221-4525)

(単位: %)

		鉱工業生産						資本財(除く輸送機械)		消費財			
		生産		出荷		在庫		在庫率		出荷			
		前月比	前年比	前月比	前年比	前月比	前年比	前月比	前年比	前月比	前年比		
21年	1月	1.9	▲5.3	1.9	▲5.2	▲1.3	▲10.3	▲4.0	▲4.0	7.6	▲0.2	0.0	▲5.7
	2月	▲0.1	▲2.6	▲0.6	▲3.7	▲0.3	▲9.4	0.6	▲3.8	0.4	6.3	▲1.7	▲5.9
	3月	1.7	3.6	0.7	3.5	0.0	▲10.0	▲1.3	▲12.5	▲3.2	8.3	0.6	1.2
	4月	1.1	15.6	1.3	15.8	0.2	▲9.9	▲0.6	▲22.0	8.9	19.2	▲0.5	15.1
	5月	▲6.2	21.0	▲2.6	21.2	▲0.5	▲8.9	1.2	▲27.8	▲1.6	22.7	▲4.5	11.0
	6月	7.2	22.9	3.2	18.9	1.6	▲5.1	▲0.2	▲21.6	3.3	22.2	2.9	9.4
	7月	▲0.8	11.1	▲0.4	10.7	▲0.3	▲4.7	1.6	▲13.3	▲0.7	19.2	0.5	0.4
	8月	▲1.9	8.4	▲2.6	6.7	▲0.1	▲3.8	1.9	▲10.0	▲1.6	24.8	▲5.2	▲5.4
	9月	▲6.5	▲2.5	▲7.2	▲4.6	2.7	0.4	4.5	0.3	▲1.4	15.1	▲13.4	▲20.0
	10月	2.1	▲4.3	2.5	▲5.9	0.5	2.1	▲1.2	4.8	▲0.9	8.8	10.9	▲14.6
	11月	5.0	4.8	5.4	3.3	1.4	5.5	▲1.5	0.5	0.6	9.9	8.9	▲1.6
	12月	0.2	2.2	0.2	2.5	0.1	4.9	▲0.3	1.2	1.5	9.7	3.4	▲0.7
22年	1月	▲2.4	▲0.8	▲1.5	▲1.3	▲0.7	4.7	1.4	5.2	1.6	6.9	▲6.2	▲5.6
	2月	2.0	0.5	0.0	▲1.5	2.1	7.1	2.0	7.5	▲5.1	0.8	1.4	▲3.7
	3月	0.3	▲1.7	0.6	▲2.4	▲0.4	6.8	0.6	10.5	1.7	5.5	▲1.5	▲6.6
	4月	▲1.5	▲4.9	▲0.3	▲4.6	▲2.3	4.1	▲2.8	8.4	1.9	▲2.5	0.7	▲5.8
	5月	▲7.5	▲3.1	▲4.1	▲3.1	▲0.9	3.8	3.1	7.9	▲4.2	▲1.9	▲4.6	▲3.4
	6月	9.2	▲2.8	5.0	▲2.9	1.9	4.2	▲1.4	7.8	8.7	1.5	4.0	▲3.6
	7月	0.8	▲2.0	1.2	▲2.1	0.6	5.1	3.8	10.5	6.9	8.0	2.0	▲2.5
	8月	3.4	5.8	2.8	5.9	0.7	5.9	▲3.0	3.6	4.2	17.8	4.9	9.8
	9月	▲1.7	9.6	▲2.5	9.4	2.9	6.1	5.1	5.4	▲3.5	13.4	▲4.2	19.8
	10月	▲3.2	3.0	▲1.7	4.1	▲0.5	5.0	▲4.5	2.8	▲4.2	9.1	0.1	7.1
	11月	0.2	▲0.9	▲0.1	▲0.5	0.3	3.8	3.3	6.9	▲3.6	4.9	2.5	1.8
	12月	▲0.1	▲2.8	▲0.7	▲3.0	▲0.5	3.2	1.2	9.8	1.6	3.2	1.3	▲1.6
23年	1月	0.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	2月	4.1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

(出所) 経済産業省「鉱工業指数」

(注) 23年1月、2月は、製造工業生産予測調査の数値

○10-12月期は2四半期ぶりの減産

経済産業省から公表された22年12月の鉱工業生産は前月比▲0.1%の低下となった。事前の市場予想(同▲1.2%)や経産省予測値(同▲1.3%)を大きく上回ったことはポジティブサプライズだったが、前月から横ばい程度の動きに留まり、生産は弱含みの状態が続いている。輸送機械工業や生産用機械工業など4業種が上昇した一方、汎用・業務用機械工業や鉄鋼業、電気・情報通信機械工業など10業種で低下した。10-12月期は前期比▲3.1%となり、2四半期ぶりの減産となった。

同時に公表された製造工業予測指数は、23年1月が前月比0.0%、2月が同+4.1%となった。予測指数には上振れバイアスがあり、こうしたバイアスを考慮した経済産業省の補正試算値では、1月は前月比▲4.2%と大幅低下が見込まれている。足元では、金融引き締めの影響による欧米諸国の財消費の弱まりや感染拡大が続く中国の景気低迷を背景に、実質輸出も弱含んでいる。23年1-3月についてもこうした外需の減少に下押しされることで、生産は弱い動きが続くだろう。

○1-3月期も外需縮小により生産は下押しが続く

10-12月期の生産を業種別にみると、生産用機械(前期比▲8.3%)、輸送用機械(同▲3.1%)、電

子部品・デバイス（同▲5.9%）などが大きくマイナスに寄与した。生産用機械は、7-9月期に大きく上振れていたため、10-12月期はその反動の面が大きいといえるだろう。もっとも、生産予測指数によれば、続く23年1月も前月比▲6.9%と大幅低下が予想されており、1-3月期は海外景気の悪化を反映して押し下げが続きそうだ。

輸送用機械は、部品供給不足を背景に低迷した状態が続いており、足元では横ばい程度の動きとなっている。生産予測指数でも23年1月は前月比▲6.6%、2月は同+13.8%と一進一退の動きが見込まれており、本格的な回復にはまだ距離がある。ただし、中国がゼロ・コロナ政策からの転換に舵を切ったことは好材料といえそうだ。中国国内では感染拡大による混乱が続いているものの、足元の感染動向が一服すれば供給制約の緩和が進む可能性がある。主力の輸送用機械の生産回復が23年にどれだけ進むかが、鉱工業生産指数の先行きを左右するだろう。

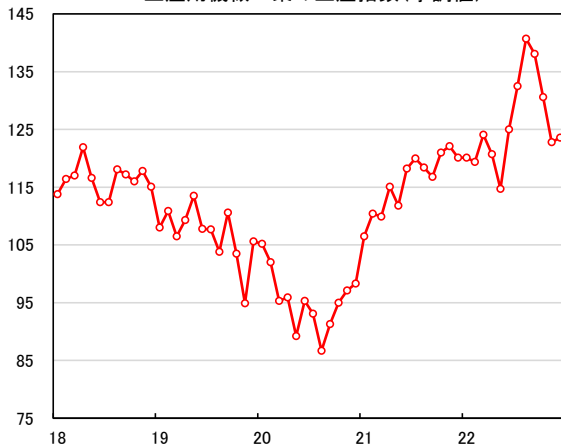
電子部品・デバイスは、3四半期連続で大幅低下となり、明確な減少傾向を辿っている。生産予測指数では23年1月に前月比+2.1%、2月に同+4.8%と上昇が計画されているが、このところの実現率は下振れが目立っており（12月実現率▲8.7%）、これまで旺盛だったIT需要の一巡と世界的な景気減速を受けて先行きも低迷が続く可能性が高い。

目先の1-3月期については、急ピッチな金融引き締めを行ってきた欧米諸国を中心に世界経済の下振れが必至の情勢であり、外需の減少が生産の下押しにつながる可能性が高い。先行きの生産は弱含みの動きが続くだろう。

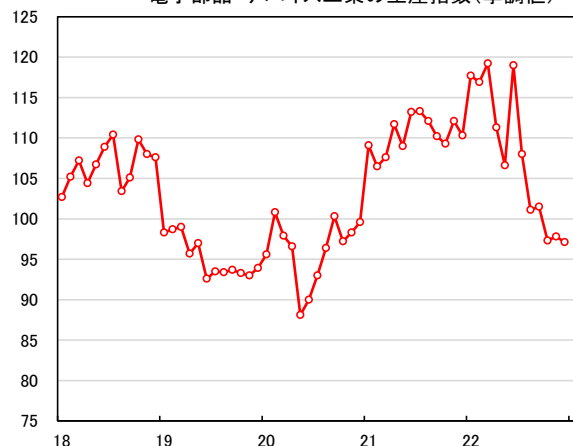
(15年=100) 鉱工業生産指数(季調値)



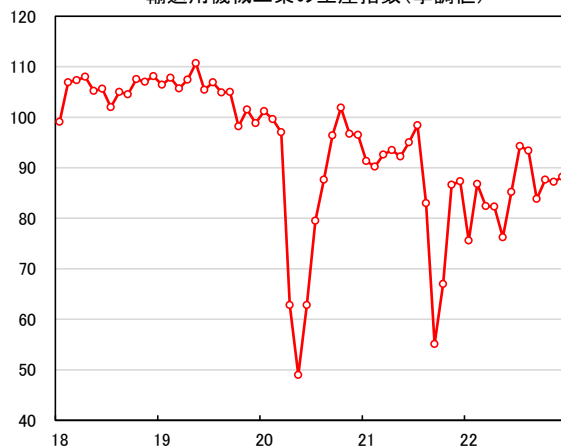
(15年=100) 生産用機械工業の生産指数(季調値)



(15年=100) 電子部品・デバイス工業の生産指数(季調値)



(15年=100) 輸送用機械工業の生産指数(季調値)



本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命保険ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。

